

第九十回帝國議會
衆議院

食糧緊急措置令(承諾を求める件)委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

食糧緊急措置令(承諾を求める件)

昭和二十一年七月四日(木曜)午前十一時三十分開議

出席委員

委員長 成島 勇君

理事 岩本 信行君 理事 坂本 實君

理事 森 幸太郎君 理事 馬越 晃君

理事 松岡 渾君 理事 細野 三千雄君

大井直之助君 坂田 道太君

廣川 弘禪君 神戶 眞君

吉米地義三君 保利 茂君

堀川 恭平君 叶 凸君

清澤 俊英君 田中 健吉君

堂森 芳夫君 北 政浩君

林 興一郎君 山木 武夫君

井出一太郎君 志賀 義雄君

出席國務大臣

農林大臣 和田 博雄君

出席政府委員

農林次官 柳見 義男君

食糧管理局長 片柳 眞吉君

商工事務官 鈴木 重郎君

本日ノ會議ニ付シテ議案
食糧緊急措置令(承諾を求める件)

○成島委員長 ソレデハ是ヨリ委員會
ヲ開會致シマス——農林大臣

○和田國務大臣 私カラ食糧緊急措置
令ニ付キマシテ、其ノ制定ノ經過ト理

由ト其ノ主要ナ内容ニ付キマシテ御説
明申上ゲマス

本會議ニ於キマシテ申上ゲマシタヤ
ウニ、昭和二十年産米ノ政府買入数量

ハ、本年ノ一月三十一日現在ニ於キマ
シテ約千九十六萬石デゴザイマシタ

ガ、是ハ政府カラ農家ニ對シマシテ供
出割當ヲ致シマシタ約二千六百五十萬

石ニ對シテ四割一分餘リニ當ルノデゴ
ザイマス、而シテ此ノ成績ハ、昨年度

及ビ一昨年度ニ比較致シマスレバ、極
メテ不良デゴザイマシテ、即チ同一時

期マデノ昨年ノ買入数量ハ約二千六百
萬石デゴザイマスガ、割當量ニ對スル

比率ハ六割九分八厘ニナツテ居リマ
ス、又一昨年ノ買入数量ハ約三千三百

八十萬石デゴザイマシテ、割當量ニ對
スル比率ハ八割五分デゴザイマス、本

年ハ米ノ生産ガ御承知ノヤウニ風水害
其ノ他ノ原因ニ依リマシテ、實收ノ見

込ガ四千萬石ヲ割ラントスルノナ異
常ナ減收ヲ見マシタ爲メ、供出割當自

體ニ於キマシテモ、昨年及ビ一昨年ニ
比ベマシテ、千百萬石乃至千三百萬石

ラ基ト致シマシテ、色々ナ派生ノナ現
象ガ現ハレテ參ツタノデゴザイマスル

ガ、其ノ最モ大キモノハ、農家ノ一
部ニ於キマシテ、供出ニ對シマシテ日

和見ノ態度ニアツタコトデゴザイマ
ス、此ノコトハ戰時中ニ於キマシテモ、

供出ニ關シマシテハ信實必罰ガ厲行サ
レバ、正直者ガ損ヲ見タト云フ幾多ノ

事例ガアリマシテ、是ガ善良ナ農民ニ
少カラヌ惡影響ヲ與ヘテ居ルコトハ事

實デゴザイマシテ、惡質不良者ノ數
ハ、日本ノ農村ニ於キマシテハ極メテ

少數デハゴザイマスルガ、其ノ存在ハ
全國到處ニ於テ善良ナ農民ノ唧ツ所

デゴザイマシテ、供出確保ノ爲ニハ是
非トモ此ノ弊風ヲ一掃スル必要ガアツ

タノデゴザイマス

次ニ都市消費面ニ於テモ、食糧不
安ヲ總ツテ種々ノ問題ガアリマシテ、

就中配給上ノ不正行為ニ付キマシテ
ハ、所謂闇賣人口、或ハ職權詐稱ニ依

リマスル不正受配等ノ行為ハ、從來ヨ
リモ是ガ防遏ニ付キマシテハ取締ヲ致

シテ居ツタノデアリマスガ、マダ其ノ
跡ヲ絶ツテ居ラス有様デアリマシテ、

是等ノコトガ、假ニ極ク少數デアリマ
シテモ存在致シマスコトハ、食糧配分

ニ關シマスル公平感ノ上カラ見マシ
テ、一般ニ惡影響ガアリマスルノミナ

ラズ、農家ノ供出意欲ニモ惡影響ヲ與
ヘル結果トナリマスルノデ、是等不正

行為ノ取締ヲ嚴重ニスル必要ガ痛感セ
ラレタノデアリマス

本勅令案ノ骨子ト致シマスル所ハ、

第一條、第九條、第十條及ビ第十一條
ニ規定致シテアリマスガ、先ツ第一條

ニ於キマシテハ、政府ニ對シマシテ賣
渡ノ命ジマシタル主要食糧ヲ賣渡ス

ベキ期限マデニ賣渡サナイ惡質農家
等ニ對シマシテハ、政府ニ於キマシテ

賣渡サル主要食糧ヲ強制的ニ收用ス
ルコトヲ規定致シテ居ルノデゴザイマ

ス、本條ハ前ニ申上ゲマシタヤウニ、
極ク少數ノ惡質不良者ノ存在ガ善

良ナル一般農家ニ惡影響ヲ及ボスノデ
アリマシテ、元來是等ノ惡質者ニ對シ

マシテハ、現在ノ食糧管理法ニ於キマ
シテハ刑罰ヲ科シ得ルコトニナツテハ居

リマスガ、要ハ刑ニ存スルノデアアリ
マセヌデ、物ヲ確保スルコト云フ點ニ

テ次第デゴザイマスカラ、今回ノ措置
ニ依リ收用スルコトト致シタノデアリ

マス、併シナガラ事務ハ極メテ重要デ
ゴザイマスノデ、是ガ運用ニハ特ニ留

意致シマシテ、具體的發動前ニ、各方
面ノ意向ヲ徴シ、且ツ豫メ本人ニ警告

ヲ發シマスル等手續モ慎重ニ致シマス
ルト共ニ、出來得ル限リ所謂傳家ノ寶

刀トシテノ效果ヲ期待致シマシテ、發
動スルガ如キ事例ノ少ナカラシコトヲ

念願致シタヤウナ次第デゴザイマス

次ニ第九條ニ付テ申上ゲマスルト、
養生食料品ノ統制ヲ撤廢致シマシ

タ結果、市場ニ出廻リマシタ数量ハ、
統制撤廢前ニ比シマシテ相當増加ヲ見

タラデゴザイマスガ、價格ノ點ニ於キ
マシテ著ク騰貴致シマシテ、其ノ爲ニ

一般消費者ハ是ガ入手ニ付テ多大ノ困
難ヲ感ジテ居リマシテ、國民ノ生活安

定ニ憂慮スベキ狀況デゴザイマシタ、

本條ハ青果物、魚介類、其ノ他ノ食料
品ニ付キマシテ、其ノ配給ニ適正ト必

要ナル統制トヲ實施致シマシテ價格ノ
安定ヲ圖リマスル爲メ、是等ノ食料品

ノ配給、讓渡價格等ニ關シ必要ナル命
令ヲ發動スルノ道ヲ開クコトト致シタノ

デゴザイマス

第十條ハ、不正ナ手段ニ依リマシテ
主要食糧ノ配給ヲ受ケ、又ハ他人ヲシ

テ之ヲ受ケシメタ者ニ對シマスル處罰
ノ規定、第十一條ハ供出阻害ニ關スル

煽動行為ヲ封ズル規定デゴザイマス、
主要食糧ノ管理ノ強化並ニ食料品ノ配

給ノ適正及ビ價格ノ安定ニ關シマスル
以上ノ措置ハ國民生活ノ安定上、延イ

テハ公共ノ安全保持上一日ノ遲延ヲモ
許ササルモノデアリマスノデ、本緊急

勅令ノ制定ヲ仰イダ次第デゴザイマス
以上ガ本令ノ制定ニ至リマスルマデ

ノ經過及ビ其ノ内容デゴザイマスル
ガ、特ニ其ノ中心ヲナシマスル所謂強

權發動ノ點ニ付キマシテハ、其ノ收用
狀況ハ六月十五日現在ニ於キマシテ各

府縣カラノ報告ヲ取繼メマシタ結果
ハ、數量ニ於キマシテハ二千四百六十

一石、件數ニシマシテ千八百九十九件
デアリマシテ、數量のニハ存程多クハゴ

ザイマセヌガ、先程申上ゲマシタヤウ
キ、寧ロ傳家ノ寶刀のナ役割ハ十分果

シタモノト存ズルノデアリマシテ、此
ノコトハ爾後ノ供出數量ノ實際面ニ於

テ如實ニ現ハレテ居リマシテ、結局供
出ノ促進、延イテ食糧事情ノ緩和ニハ

少カラヌ效果ヲ得タモノト確信致

ス

シテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ今後ニ於キマシテモ、供出制度ニ隨件致シマシテ強權發動ノ規定ハ存續セシメル考ヘデアリマスガ、其ノ運送ニ付キマシテハ一層慎重且ツ適正ナラシメル必要ガアルト考ヘマスノデ、民主的ナ組織ニ改組致シマシテ、市町村食糧調査委員會ノ申請ヲ依ツテ發動スルコトヲ原則ト致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ生鮮食料品關係ニ付キマシテ、第九條ノ規定ニ基キマシテ水産物ニ付テハ三月十六日附ヲ以テ水産物統制令(勅令第四百五十五號)ヲ、又青果物等ニ付キマシテハ四月三十日附デ青果物統制令(勅令第四百五十七號)ヲソレム、公布致シマシテ、現ニ著々再統制ヲ軌道ニ上スベク努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス、何卒宜シク御審議ノ上御可決アラント御願ヒ致シマス

○森(幸)委員 二、三農林大臣ニ御尋ね致シタイと思ヒマス、此ノ勅令ノ發布ハ、只今御述べニナリマシタ當時ノ我が食糧事情ヨリ考ヘテ見マシテ、已ムヲ得ナイ最後ノ手段デアッタト言ヒ得マスケレドモ、我々國民カラ考ヘマスレバ、政府ガ今日マデ食糧ニ對スル政策ガ殆ド確定シテ居ラナカッタ、即チ政府自身ガ全ク無力デアッタ、其ノ自分ノ無力ヲ此ノ權力ヲ以テ補ハントサレタモノト、斯様ニ考ヘラレルノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ農林大臣ノ御所見ヲ承リタイ、又農林大臣ハ、一昨日ノ本會議ニ於テ、供出方法ガ不合理的デアッタト云フコトヲ御認メニナツタヤウニ承ツタノデアリマス、然ラバ、此ノ不合理デアルト御認メニナツタ供出方法ヲ、依然トシテ今日マデ繼續サレタ其ノ御所見如何、此ノ二點ニ付テ承リタイト存ジマス

○和田國務大臣 御答ヘ致シマス、此ノ食糧緊急措置令、所謂強權發動ハ、當時ノ事情ト致シマシテハ已ムヲ得ナイト云フコトハ、御認メヲ願ヘタト思フノデアリマスガ、政府トシマシテ食糧對策ニ付キマシテ必ズシモ無能デアッタトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、政府トシマシテハ、前内閣ニ於キマシテモ松村農相以後、食糧ノ輸入ニ付キ、或ハ其ノ供出ニ付キ、ソレム、色々ト苦勞ヲ致シ努力ヲ致シテ參ツタと思フノデアリマス、併シ各種ノ事情ガアリマシタシ、殊ニ終戦後ノアノ混亂期ニ際シマシタノデ、ソレ程效果ガ著ラナイ面モアツタト思ヒマスガ、私ハ公平ニ見マシテ、政府トシマシテハ十分努力ヲシタノダト考ヘテ居リマス、ソレカラ、供出方法ニ付キマシテ不合理ガアツタト云フコトハ、是ハ私共モ認メルノデアリマス、併シ其ノ不合理ナ點ヲ直ダニ是正スルコト云フコトガ、アノ時代ニ於テ果シテ出来タカドウカト云フコトハ、是ハ御考ヘヲ願ハネバナラスト思ヒマス、隨テ此ノ點ニ付キマシテハ、今回ノ麥ノ供出等ニ付キマシテハ、総合的ニ考ヘマシテ、市町村ノ食糧調査委員會ト云フ一ツノ組織ヲ作りマシテ、今後ハ之ヲ民主的ニ合理化シテ行カウ、斯様ニ考ヘタ次第デアリマス、今後ノ食糧政策ニ付キマシテハ、今マデノ經驗ヲ十分ニ活カシテ、サウシテ合理的ナ劃當方法ヲヤツテ行キタイト考ヘテ、我々トシマシテハ準備ヲ致シテ居リマスシ、又サウ云フ考ヘデ居リマス

○森(幸)委員 只今、今後ハ大イニ是正シテ行キタイト云フ農林大臣ノ御答辯ヲ得タコトヲ感謝スルノデアリマスガ、今回ノ食糧危機ニ對シマシテハ、關係方面ノ格別ナル厚意ニ依リマシテ、一時的救済ハサレマシタケレドモ、今日ノヤウナ食糧政策ニ於キマシテハ、私ハ將來トテモ安心ヲシ得ナイト考ヘルノデアリマス、一體政府ハ、ドレダケノ食糧ヲ政府ノ手ニ確保スレバ宜イノデアアルカ、ドレダケノ主要食糧、或ハ其ノ他ノ代替物モ宜シイ、兎モ角是ダケノ食糧ハ是非トモ年々確保シナケレバ、日本國土ノ住民ガ勿論饑饉ヲ許シマセヌ、敗戦ノ場合、國家ノ再建ノ爲デアリマスカラ、世界的ニ食糧危機ヲ唱ヘテ居ル今日、我々ハ満足ニ此ノ食糧ヲ得ヨウトハ考ヘラレナイノデアリマス、併シ最小限度ノ食糧確保ハ、國家ト致シマシテモ之ヲ確保シナケレバナリマセヌ、此ノ見地ト云フコトヲ御想ト考ヘテ居ラレルカ、又ソレヲ御考ヘニナルニ付キマシテハ、食糧ノ生産計畫ト云フモノヲ立テケレバナラナイ、食糧ノ生産計畫ヲ立テルニ付キマシテハ、國土ノ立地のナル所ノ基礎ニ依ラナケレバナラスト思ヒマスガ、今日日本ノ各方面——是ハ此ノ方面ダケデアリマセヌガ、各方面ニ對シテ正確ナル數字ヲ把握スルコトガ絕對出來ナイ、是ハ戰爭當時、物動計畫ノ爲ニ色々ノ統計ガ秘密ニ付セラレマシテ、國民ハ我が國ノ國勢狀態ヲ知ラウトシテモ知り得マセヌ、一切秘密ニサレテ居ツタノデアアリマスガ、今日農林當局ニ於テドレダケノ正確ナル統計ヲ御持ナニナツテ居ルカ、私ノ見ル所デハ洵ニ杜撰ナル統計デアルト思ヒマス、其ノ杜撰ナル統計ニ依ツテ此ノ食糧生産計畫ヲ立テルト云フコトハ、洵ニ砂上ニ宮殿ヲ建築スルヤウナ狀態デアリマスガ、先程

申上ゲマシタ通りニ、今後我が國ニ是ダケノ食糧ハドウシテモ確保シナケレバ、國民ガ最小限度ノ生活ハ維持出來ナイト云フ、其ノ數字ヲ如何ナル方法ニ依ツテ獲得サレントナサルノデアアルカ、此ノ御所見ヲ承リタイ

○和田國務大臣 食糧ノ政策ニ付キマシテハ、ヤハリ生産力ヲキチント計畫ヲ立テマシテ、消費モ見、人口モ見テ需給ヲ推算ハツキリタルコトガ必要ダト考ヘマス、ソレカラ特ニ統計ノ問題デゴザイマスガ、是ハ農林省ト致シマシテハ、統計ニ付テハ、市町村ニ十分統計員ヲ置キマシテ、手足ヲ持ツテ統計ノ正確ヲ期シテ居ルノデゴザイマスガ、御意見ノヤウニ、戰時中ノ色々ノ關係デア角統計ガ正確サヲ缺イテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ對シテハ統計ニ付テ尙ホ一層今後科學性ヲ持タセソレヲ正確ニシテ行クコト云フコトハ必要デアリマシテ、是等ノ事情ニ付テハ、我々ト致シマシテモ今後十分改善シテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

ソレカラドレダケノ數量ヲ持テバ宜イノカト云フコトニ付キマシテハ、私ハ輸入食糧ハ別ト致シマシテ、政府ノ操作用ト致シマシテハ五千萬石ヲ持テバ大體ノ賄ヒハ付イテ行クノデアナイカ、斯様ニ考ヘテ居リマス、勿論五千萬石ト云ヒマスルノハ、凡ユルモノヲ綜合シテノコトデアリマス

○森(幸)委員 我方國ノ農村ガ惡條件ノ爲ニ、小作農民生活ハ非常ニ貧困デアリ、借金ニ苦シンデ居ルトノ見方ガサレテ居ルノデアリマス、又現在小作農民ノ負債ノコトニ付キマシテ、我が農村ニ對スル國家財政政策ハ、商工業者ニ比シ非常ニ重課サレ、不利ノ立場ニアッタガ、我が國家ノ負擔ハ一體誰

ガ之ヲ負擔シテ居ルト御考ヘニナルノデアアルカ、又政府ハ、現在高率ナル現物小作料ト遺制の小作關係ニ支離セラレテ、小作農民ノ所得ハ常ニ低位トナツテ居ルト認メテ居ラレル、此ノコトガ一方ニ農民ノ貧窮ヲ齎スト共ニ、他方地主ノ土地所有者ヲ有利ナラシメテ、農民ノ寄生地主化ヲ齎シテ居ルト認メデ居ラレマスガ、是ハ農林當局トシテハ此ノ通り御認メニナツテ居ルメニナツテ居ルトスルナラバ、此ノ小作料ト云フモノニ付テハ、高率ナル現物小作料ヲ御認メニナル以上ハ、一體今日小作料ト云フモノヲ實際ドウ云フ風ニ小作者ガ拂ツテ居ツタカ、此ノ統計ヲ御示シテ願ヒタイと思ヒマス

○和田國務大臣 農家ノ負債ニ付キマシテハ、是ハ日本ガ遭遇シマシタ所謂農村恐慌ノ時代ト、ソレカラ戰時中カラズツト今日マデノ時期トハハツキリ分ケテ私ハ考ヘナケレバナラスト思ツテ居リマス、恐慌中ハ、農家ノ負債ガ四十億乃至五十億ト言ハレマシタヤウニ、農村ハ非常ニ負債ヲ帶ビテ居リマシタ、併シ其ノ後戰爭中及ビ戰後ノ「インフレーション」ニ依リマシテ、農家ノ負債ト云フモノニ付テ正確ナ調査ハゴザイマセヌ、ゴザイマセヌガ、部分的ナ調査ヲ見マスルト、ソレカラ又一面市町村農業會ナリ、其ノ他郵便局ナリニ集マツテ來テ居リマスル貯金ナリ預金ナリノ狀況ヲ見マスレバ、農家トシテノ負債ト云フモノハ相當輕減サレタノデアリナイカ、斯様ニ考ヘラレマス、併シ農家負債ニ付テハ全國的ノ調査ト云フモノハ今ノ所ゴザイマセヌ、唯村ニ付キ、或ハ部落ニ付テ戸別的ニ調査シタモノガアルデゴザイマシ

デ、農家ノ經濟調査ト云フ農林省ノヤ
クテ居ルモノカラ推定ガ出來ルダケデ
ゴザイマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ
私ハ可ナリ改善サレタ點ガ認メラレル
ノデハナイカト思ヒマス

ソレカラ小作料ノ點デアリマスル
ガ、日本ノ小作料ガ高率ナル現物小作
料デアツタト云フコトハ、是ハ私ハハ
リ認メナケレバナラヌノデハナイカト
思ヒマス、日本ノ農民ノ大部分ガ一町
以下ノ耕作者デアリ、而モ小作人ヲ取
ツテ見マシテモサウ云フ者ガ多ク、又
小作料ニ於キマシテモ、收穫量ノ半分
或ハソレ以上ノモノヲ納メテ居ツタヤ
ウナ者モアツタヤウナ工合デゴザイマ
シテ、小作料ガ可ナリ高率デアツタ、
サウシテソレガ現物デアツタト云フ點
ニ於テ、日本ノ農業ノ發達ガ或ル程度
ソレニ依ツテ制約サレタト云フコトハ
私ハアツタト思ヒマス、現在小作料ガ
ドノ位ニナツテ居ルカト云フコトニ付
キマシテハ、是ハ數字デ表サ差上ゲマ
シタ方ガ御理解シ易イト思ヒマスノ
デ、後刻取擧ヘマシテ提出致シタイト
思ヒマス、大體私ガ前ノ議會ニ農地調
整法案ヲ提出致シマシタ時ハ、永作田
ニ付テハ穀カ物納ニ於テ四四〇位ニナ
ツテ居ツタヤウニ記憶致シマスルガ、
正確ナコトハ又數字デ御示シ致シマ
ス

○森(孝)委員 昨年、前ノ議會デアリ
マシタカ、金納化スル場合ニ、小作料
ハ穀カ七十五圓デアツタカニ決定サレ
タト思ヒマスガ、是ガ地主小作双方カ
ラ考ヘテ妥當ト農林大臣ハ御認メニナ
ツテ居ラレマスカ

○和田國務大臣 此ノ前小作料ノ物納
ヲ金納ニ致シマシタノハ、其ノ時ニ於
ケル現實ノ物納小作料ヲ金納ニ致シタ

ノデゴザイマシテ、アノ當時ハ地主米
價ト云フモノガゴザイマシテ、地主米
價ハ五十五圓デアツタ譯デゴザイマ
ス、地主ハ小作料トシテ、事實金納ト
シテ五十五圓實ツテ居ツタ譯デアリマ
ス、ソレヲ議會ノ御話ニ依リマシテ、
七十五圓ト云フコトニ致シタノデゴザ
イマシテ、現事ノ小作料ヲ其ノ儘金納
ニ致シタノガ七十五圓、斯ウ云フコト
ニナツテ居ルノデアリマシテ、小作料
ノ全般ノ議論ニ付キマシテハ、ソレ
ゾレノ御議論ガヤハリアルト私ハ思ヒ
マスガ、其ノ時ノ物納小作料ヲ金納小
作料ニ致シマシタノハ、現實ノ物納小
作料ヲ時ノ地主米價五十五圓デアリマ
シタノヲ、二十圓事實上ハ上ツタコト
ニナツテ居リマスガ、七十五圓ト云フ
モノニ依ツテ事實的ニ金納化シタ、斯
ウ云フコトニナツテ居リマス

○森(孝)委員 昨ハ供出ガ非常ニ不振
デアツテ、政府ハ緊急勅令マデ發布セ
ナケレバナラヌヤウニナツタト云フコ
トニ付テ、今後政府ハ凡ニル角度カラ、
ア、云フ風ナコトヲセナクトモ、五
千萬石ノ要求スル數量ガ供出サレヤ
ウニ考ヘタイ、善處シタイト云フ御氣
持ハ能ク分ツタノデアリマスガ、政府
ノ御考ヘニナツテ居リマスコト、ソレ
ヲ實現スルニ付テハ政府ノ見方モ色々
アリマセウ、斯ウ云フ所ニ供出ノ隘路
ガアツタト云フコトモ御考ヘニナルデ
アリマセウガ、私ノ考ヘテ居リマスル
點ヲ申上ゲテ、御意見ヲ承ツテ見タイ
ト思フノデアリマス

第一ニ供出割當ノ根據ガハツキリシ
ナイ、各府縣ニ割當テラレマシタ數字
ヲ見マシテモ、最近ノ實收平均額ト云
フモノハ分ツテ居リマセヌカラ、基礎
ヲ求メルコトハ出來マセヌガ、大體整

去ノ米產實收額ト云フモノノ統計ニ比
較シテ見マシテモ、府縣ニ依ツテ非常
ナ不公正ガアル、是ガ生産者ガ供出割
當ニ疑義ヲ持チ、協力ヲシナカツタ點
ト思フノデアリマスガ、政府ハ、アノ
供出割當割當ト云フモノハ、ハツキリシ
タ根據ガアツテ、其ノ根據ニ依ツテ割
當テラノデアリカラ、何レカラモ非難
ノナイ公正ナモノト御認メニナツテ居
ルカ、殊ニ供出割當ノ時期ガ、未ダ實
收額ノハツキリシナイ以前テノ割當デ
アリマスルカラ、ソコニ無理ガアル、是
ハ神樣デナケレバ出來ナイ仕事ダトハ
思ヒマスガ、此ノ時期ニアノ割當ヲス
ルノハ多少ノ不公正モ免レナイト云フ
御言葉ガアルカモ知レマセヌガ、然ラ
バ實收額ガハツキリ致シタ上ニ於テ、
當初ノ割當ガ是正セナケレバナラナイ
ト云フコトニナツテ來ルト考ヘマス、
昨年、當初三千萬石ノ割當テラレテ、
ソレヲ二千六百五十萬石ニ訂正サレタ
ノデアリマスルガ、ソレヲ各府縣ニ割
當テラレタ基礎ハドコニアツタカ、之
ヲ私ハ是正セナケレバナラヌト思フノ
デアリマスルガ、政府ハ公正ナル割當ヲ
シタト斯様ニ御考ヘニナツテ居ルカ、
又供出スル總テノ物ノ價格ガ不適正デ
アル、是ハ農林當局モ御認メニナツテ
居ラウト思ヒマスルガ、洵ニ不公正ナ
價格ニナツテ居ル、私ハ之ヲ急イデ解
決シテ戴カケレバナラヌト思ヒマス
コトハ、今現ニ麥ヲ供出シナケレバ
ナラヌ、馬鈴薯ヲ今現ニ出シテ居
リマス、麥ヲ出サナケレバナラヌ
ガ、麥ト云フモノヲ一體ノ位ノ價格
ニ於テ政府ハ買上ゲラレル方針デア
ルカ、又來年ノ米ノ價格ニ致シマ
シテモ、ドノ位ナ程度デアワノダト
云フコトハ植付ケルマデニモウ既ニ

ハツキリシナイト農民ノ生産意欲
ハ起ツテ來ナイ、現ニ我々農林ニ於
テ、農業會ノ取扱ツテ居リマスル品
物デアリマスルカラ價格ハ無論尤公デ
アリマス、公定價格デ比較シテ見マス
ルト、脱穀機ヲ買ヒマスノニ二石八斗
三升米ヲ持ツテ行カケレバナリマセ
ヌ、製糲機ヲ持ツテ行カケレバナリマ
五斗ノ米ヲ要スルノデアリマス、價格
ノ比較デアリマスルガ、農家ノ最モ希
望致シテ居リマスル鐵製ノ「リヤカー」
ヲ買ヒマスノニハ八石ノ米ヲ持ツテ
行カケレバ買ヘナイ、除草機ニ於
テ五斗、三斗鐵ノ如キモノ一斗七升、
田鋤鐵ニ於テ七斗、足付ノ鐵ニ於
テ五斗、鎌一挺買フニモ六斗ノ米ヲ
持ツテ行カケレバ買ヘナイノデア
リマス、殊ニ野鍛冶ニ於テヤリ得タ
モノガ、今統制ニ依ツテ鍛冶屋ガシ
テ與レナイノデアリマス、三斗鐵、備
中鐵ノ平鐵ノ先ガケヲ致シマスニ付キ
マシテモ、一斗乃至七升ノ米ヲ持ツテ
行カケレバ鐵ノ先ガケガシテ貰ヘナ
イ、農機具ノ上ニ於テモ、斯クノ如ク
米ノ價格ト農機具ノ價格ニ非常ナ食違
ヒガ出來テ居ルノデアリマス、殊ニ農
村ノ最モ希望致シテ居リマスル自轉車
ノ「ダイヤ」「チューブ」、是等ノ如キハ
五石ノ米ヲ持ツテ行カケレバ一臺ノ
自轉車ガ手ニ入ラナイ、「ゴム」ノ長靴
一足ヲ買ヒマシテモ、是ハ農業會ノ方
ハ日用雜貨品トシテ廻ツテ來ルノデア
リマスガ、是デモ六斗ノ米、一俵半ノ
米ヲ持ツテ行カケレバ買ヘナイ、下
駄一足デモ一斗三升ノ米ヲ持ツテ行カ
ナケレバナラナイ、此ノ頃農村ニ於キ
マシテハ、雨ガ降ルノ國民學校ノ通ツ
テ居ル子供ハ缺座致シテ居リマス、下
駄ガナク、傘ガナイノデアリマス、傘

一本買フニ付テモ七升以上ノ米ヲ持ツ
テ行カケレバ買ツテ與レナイ、田ノ草
ヲ取ル時ノ麥藁帽子ヲ買フノニサヘモ、
六升ノ米ヲ持ツテ行カケレバ買ヘナ
イヤウナ事情デアリマス、殊ニ軍隊カ
ラ配給サレタ品物ニ於キマシテハ、割
合ニ安イノデアリマスガ、統制方面カ
ラ返シサレマス衣料品、供出ノ對シテ
見返リ物資ダト云フノデ非常ニ政府ハ
御好意ヲ以テ配給サレテ居ル所ノ品物
モ、綾ノ木綿一反買フニ付テモ一斗一
升五合ノ米ガ要ル、卷脚絆一ツ買フニ
付テモ三升ノ米ガ要ル、地下足袋一足
六升ノ米ガ要ル、斯ウ云フ風ナ情勢
アルノデアリマス、斯ウ云フ風ナ情勢
デハ、農民ガ供出ニ對シテ協力スル氣
持モ起キナケレバ、生産意欲モ起ツテ
來ナイ、政府ノ豫期サレタヤウナ供出
量ニハ容易ニ達スルコトガ出來ナイノ
デハナイカト思ヒマス、隨テ閣取引或
ハ物々交換ト云フモノガ自然ニ起ラザ
ルヲ得ナイノデハナイカト思フ、是ガ
今日供出ヲ不振ナラシメタ所ノ隘路ノ
最モ大ナルモノト思フノデアリマス

次ニ此ノ供出ノ隘路ニ付テ、都市ト
農村トノ精神的結合ガ消失致シテ居
ル、是ハ農村ハ幾ラデモ食糧ガアツテ
贅澤ヲシテ居ルノダト云フ都市ノ人ノ
考ヘ、又都市ノ人ノ本當ノ生活狀態ヲ
農村ハ理解セズシテ、表面ニ現ハレタ
ル所ノ奢侈的な生活ヲノミ考ヘテ、都
市生活者ハ常ニ農村ヲ搾取シテ居ツタ
ト云フヤウナ過去ノ氣持ガ殘ツテ居リ
マス所、新聞紙等ニ於テアノ東京都ニ
於ケル「メーデー」ノ如キモノヲ寫眞ニ見
セラレ、我々ハ粒々辛苦シテ汗ヲ流シテ
田打チヤヤツテ居ル、ソレニ食糧ノ危
急トハ云ヒナガラ堂々ト列ヲナシテ暇
サウニヤツテ居ラレト云フヤウナ、

一本買フニ付テモ七升以上ノ米ヲ持ツ
テ行カケレバ買ツテ與レナイ、田ノ草
ヲ取ル時ノ麥藁帽子ヲ買フノニサヘモ、
六升ノ米ヲ持ツテ行カケレバ買ヘナ
イヤウナ事情デアリマス、殊ニ軍隊カ
ラ配給サレタ品物ニ於キマシテハ、割
合ニ安イノデアリマスガ、統制方面カ
ラ返シサレマス衣料品、供出ノ對シテ
見返リ物資ダト云フノデ非常ニ政府ハ
御好意ヲ以テ配給サレテ居ル所ノ品物
モ、綾ノ木綿一反買フニ付テモ一斗一
升五合ノ米ガ要ル、卷脚絆一ツ買フニ
付テモ三升ノ米ガ要ル、地下足袋一足
六升ノ米ガ要ル、斯ウ云フ風ナ情勢
アルノデアリマス、斯ウ云フ風ナ情勢
デハ、農民ガ供出ニ對シテ協力スル氣
持モ起キナケレバ、生産意欲モ起ツテ
來ナイ、政府ノ豫期サレタヤウナ供出
量ニハ容易ニ達スルコトガ出來ナイノ
デハナイカト思ヒマス、隨テ閣取引或
ハ物々交換ト云フモノガ自然ニ起ラザ
ルヲ得ナイノデハナイカト思フ、是ガ
今日供出ヲ不振ナラシメタ所ノ隘路ノ
最モ大ナルモノト思フノデアリマス

本當ノ都市ノ人ノ氣持ヲ知ラズシテ、農民ハ非常ニ妙ナ氣持ニ侵サレハ、アリマス、殊ニ私ノ方ニ遊覽設備アリマス、是ハ汽船ニ依ツテ琵琶湖ヲ遊覽スルノデアリマス、戰爭當時此ノ遊覽設備ハ停止サレテアリマシタガ、近頃はガ復舊致シマスルト、京阪方面ヨリ相模ケル所ノ遊覽者ト云フモノハ洵ニ夥シ、一線ノ船ニ二百人乃至三百人ヲ收容シ得ラレルノデアリマス、而モ遊覽ノ運賃ト云フモノハ四十圓出サナケレバナラス、二等ハ二十圓出サナケレバナラス、何レモ來ル人ノガ一等ノ切符ヲ買ツテシマフ、サウシテ一船ノ定期、定メテ居ル所ノ船ニ乗リ切レズ、又二船目ヲ出ス、二船目デモ乗リ切レナイカラ三船目ヲ出ス、三船目デモ乗リ切レハクテアトニ殘ツテ居ル、サウシテ其ノ人ガ酒モ持ツテ居ル、白イ辨當、お壽司ヲ持ツテ騒イデ居ル、此ノ姿ヲ農民ガ見タ時、自分ノ食フモノモ割イテ都會ノ人ヲ助ケタイト云フヤウナ氣持ニハナラナイ、此ノ都會ニ於ケル人モ農村ノ苦シイコトヲ能ク考ヘテ自重セナケレバナラナイ、又農村モ本當ニ都會ノ人ノ生活ニ苦シイ、食糧ニ苦シイコトヲ考ヘテ、サウシテ共ニ苦シム所ノ氣持ニナラナケレバナラスト思ヒマス、是ガビツタリ行カケレバ、如何ニ凡ニ政策ヲ講ジマシテモ、政府ノ考ヘテ居ラレルヤウナ供出ハ完全ニ行カナイト私ハ考ヘルノデアリマス、此ノ今更ニゲマシタ三ツガ隘路デアリマス、其ノ外細カキ點ノ隘路ヲ探セバ幾ツモアリマス、是等ニ付テ、割當ノ公正デアツカドウダカト云フコト、ソレナラ供出スル價格ガ妥當デアラカドウカ、今後供出ヲ完全ナラシムルニ付キマシテハ相當ニ

是正シナケレバナラスト私ハ考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニ付テハ御所見如何、又都市ト農村トノ精神ノ懸隔、組合ハ所ノ農林省トシテ考ヘ、方、此ノ三ツノ點ニ付テ御所見ヲ承リタイ、○和田國務大臣 森サンカラ御尤モナ御意見デアリマシテ、私モ同感スル所ガ多クアルノデアリマスガ、二十年産米其ノ他ノ割當ニ付キマシテハ、政府ト致シマシテ、私ハ一應ノ根據ハアツタノ點ト思ヒマス、何ト云ヒマシテモ食糧ノ生産ガ非常ニ減退シ、而モ需要ハ復舊其ノ他ノ關係ヲ破壞サレマシテ、其ノ再建ガ殊ニ工業部ニ於テハ起キテシテ進マナイ、謂ハバ日本ノ經濟ガ戰爭ニ因ツテ破壞サレテ、政府トシマシテハ、食糧ニ付テハ合理的ナ基礎ニ基イテ一應ノ計畫ヲ立テマシテ、ソレデ割當テ、來タノ點ト思ヒマス、唯其ノ割當ノ基準ニ付キマシテ色々御議論ガアルコトト考ヘルノデアリマス、ソレニ一應ノ理論ヲ持ツテ居ルノデゴザイマシテ、詳シイニハ政府委員カラ御説明シテ宜イノデアリマスガ、ソレ等ノ點ニ付テ、ヤハリ農家ニ納得ノ行クヤウニ十分其ノ知悉方ガ徹底シナカッタト云フ點モアツタト思ヒマス、又全體ノヤリ方ガ、謂ハバ民主的ニヤツテ行クト云フ方向ニ餘リ進ンデ居ナカッタト云フ點アルト思ヒマス、此ノ供出割當ノ根據ニ付キマシテハ、是ハ何トシマシテモ、一應ノ一種ノ計量的ナ經濟デアリマスカラ、計畫ニ依ツテ經濟ヲ動かシテ行ツテ居ルノデアリマスカラ、根據ハアルノデアリ

マス、唯今後此ノ供出割當ニ付テノ基準ト云フモノハ、先般前ノ内閣ノ時ニ食糧對策會議ヲ作ツテ貰ヒマシテ、其ノ食糧對策會議ノ特別委員トシテ各方面ノ權威ニ寄ツテ戴キマシテ、凡ニ點カラ是ガ吟味ヲ致シタノデアリマシテ、我々ト致シマシテハ此ノ基準ト云フモノハ今後ハ明示致シマシテ、合理的ナ基準ニ依ツテ是非ヤツテ行キタイト、斯ウ考ヘテ居リマス、是ハ何ト云ヒマシテモ早期ニ割當致シマセスト、實收高ガ出來上ツテカラ割當ヲスルト云フコトデハ意味ガナイト思ヒマス、御説ノヤウニ實收高ガ謂ハバ今日ノ割當ノ見込ト非常ニ異ナツタ場合ニハ、是ハ今度ノ麥ナンカニ於ケマシテモ是正スルコトヲ考ヘテ居ルノデアリマシテ、ドウシテモ農作物ト云フモノハ收穫サレテ消費サレルマデ時間ガ掛カルノデアリマシテ、ソレデ政府ガ割當ヲシマスルニハ、ドウシテモ大體ノ見込デヤツテ行カザルヲ得ナイノデアリマス、隨ヒマシテ其ノ見込ト結果トガ違ツタ場合ハ、是ハ何等カノ形デ是正スル必要ガアル、唯見込ニ依ツテ割當ヲスルニシテモ、其ノ割當ノ根據ヲナスモノハ、ヤハリ學問的ニ考ヘテモ合理性ヲ持チ、又實際上ノ割當ヲ受ケル方カラ言ツテモ、或ル程度ノ合理性ヲ持ツタモノアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、ソレ等ノ從來ノ割當ノ點ニ付テハ、適當ナ機會ニ政府委員カラ御説明シタ方ガ宜イト考ヘテ居リマス、私ハ左様ニ考ヘテ居

アレト全然新割、其ノ他ニ危機突破對策ニ揭ゲマシタ裏面物資ノ大量放出ト云ツタヤウナ形デ今度ノ新麥ハ確保シタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ來年ノ米價ノ問題ハ、是ハ私ガ本會議デオ答ヘ致シマシタヤウニ、其ノ他ノ基本的ナ物資ト綜合的ニ一ツノ物價體系ニシテ、不均衡ヲ是正シ、又合理的ナ案ヲ得ルヤウニスル考ヘデ居リマス、ソレカラ資料ノ獲得ニ農家ガ米ヲ使フ、米ガ謂ハバ經營資金トナツタト云フ點ガ、供出阻碍ノ原因デハナカッタカト云フコトデアリマスガ、ソレハ確ニ一ツノ現象トシテ現ハレテ來タト思ヒマス、全體ノ食糧ガ非常ニ窮屈ニナツテ參リマシテ、食糧ニ對スル不安ガアリマスル以上ハ、一面ニハサウ云フコトヲヤル商人ノ道義心ト云フ問題デモアリマスガ、又ソコニ物交ト云フ形ガ現象トシテ出テ來ル、ソレガ延イテハ供出ノ方ニモ影響イテ來ルト云フ關係ハアツタト思フノデアリマス、是ハ何トシマシテモ、根本的ニハ經濟其ノモノガ圓滑ニ行キマスルヤウニ、單ニ此ノ農業生産ノミナラズ、工業ノ生産ニ於テモ一日モ速ク復興ヲシテ行ク、斯ウ云フコトニ依タザルヲ得ナイノデアリマスガ、又反面農村ノ必要ナル物資ヲ取扱ヒマスル商人並ニ農業團體ノ高イ道義心ニ依ツテ多クイノデハナイイカト思ヒマス、農家ニ道義心ヲ要求スル以上ハ、商人ニモ亦此ノ經濟ノ危機ヲ突破スル爲メ高イ道義心ヲ必要トスルノデハナイイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、都市ト農村トノ精神的ナ結合ノ點ガ遲緩シテ居ル、ソレガマツ供出不振ノ原因デハナイイカト云ツ點デアリマスガ、私ハ都市ト農村ト云

フモノハ、本來對立スベキモノデハナクシテ、ヤハリ國民經濟ノ二ツノ車トシマシテ、相共ニ相互依存シテ行クモノト考ヘテ居リマス、唯今マデ經濟ガ圓滑ニ循環シテ居リマシタモノガ、現在デハ食糧其ノ他ノ物資ニ付キマシテモ、經濟面カラ非常ニ不圓滑デアリマス、ソレカラ其ノ消費者ノ立場ニ立ツ農村ト、ソレカラ其ノ消費者ノ立場ニ立ツ都市トガ、感情的ニ相互ノ理解ナクシテ對立シテ居ルガ如ク言フ人ガアルノデアリマスガ、私ヲシテ言ハシムレバ、是ハ一ツノ單ナル現象デアリマシテ、農村ト都市トノ理解ト云フコトハ私ハ十分ナシ得ルコトデアリ、又其ノ理ニ上ニ立ツテノミ食糧ノ危機ヲ突破出來ルノ點ト考ヘテ居リマス、其ノ點ニ付キマシテハ森サンノ御意見ニ私モ大ニ同感ノ點ガ多イノデアリマス、日本ノ都市ノ住民ハ大部分ガ農村ニ根ヲ持ツテ居ル人デアリマシテ、謂ハバ心ノ故郷トシテ農村ヲ各都會ノ住民ハ持ツテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ都會ノ人カ靜カニ反省スルナラバ、農村ヲ理解スルコトガ容易デアリ、又農村ノ人達ハ多クノ子弟ナリ、兄弟ナリヲ都市ニ送ツテ居ルノデアリマシテ、都市ヲ理解スルコトモ亦日本ニ於テハ容易ナノデアリマシテ、此ノ點ハ一部ノモノノ現象ダケヲ見マシテ都市ト農村トノ對立ヲ云々スルコトハ、私ハ出來ナイノデアリイカト思ツテ居リマス、是非都市、農村ト云フモノハ一體トナシテ此ノ危機ヲ突破シテ行クト云フヤウニヤツテ行キタイト思ヒマス、大體以上御答ヘ致シマス、○森(幸)委員 供出ノ割當ニ付テハ今後出來ルダケ公正ニヤリタイ、又實收ト割當ト食糧ツタ場合ニハ、適當ニ是

正シタイト云フ御意見ノヤウニ伺ウタ
ノデアリマスガ、是ハ供出方法ノ根本
ヲ考ヘマスカラ、後程又私ノ所見ヲ
申上ゲテ御意見ヲ承リタイト思ヒマ
ス、既ニ過去ノ問題デアリマスガ、私
出荷獎勵金ト云フモノハ氣ニ入ラナイ
ノデアリマス、ナゼ之ヲハツキリ一石
當リナシボト云フ價格ニナサラナイ
カ、獎勵金ヲ獎勵シナケレバ出セカ
イ、ソコニ私ハ無理ガアルト思フ、獎
勵シナケレバ、喜ンデ生産者ガ之ヲ出
出スル、満足シテ生産シ喜ンデ之ヲ出
スト云フコトニスル、獎勵金ヲ以テヤ
ルド云フコトハ私ハドウカト思フ、價
格ニ之ヲ含メテ賣支ヘナイデヤナイ
カ、之ヲナゼ價格ニスルトイケナイ
カ、馬鈴薯ガ二十四圓、同額ノ獎勵
金ヲ出シテ四十八圓ト云フコトニナ
テ居リマスガ、ナゼ價格ヲ四十八圓ト
スルコトガイケナイカ、此ノ點我々ハ
甚ダ遺憾ニ思フノデアリマスガ、此ノ
點ニ付テ尙ホ御所見ヲ承リタイノデア
リマス

ソレカラ先程五千萬石欲シテ、少ク
トモ五千萬石ハ確保シナケレバナラ
ナイト仰シヤツタノデアリマスガ、日本
ノ國民生活ガ今日ノヤウデアリマシテ
ハ、到底八千萬ノ國民ヲ満足ニ養フコ
トハ出来マイト思ヒマス、或ハ専門家
ノ話デハ、日本のナ民主主義政治ノ生
活ヲスルニアラズンバ、ドウシテモ四
割ト云フモノハ日本カラ人口ガ過剩ニ
ナル、日本獨特ノ生活様式ニ改メナケ
レバ、如何ニ科學力ヲ以テ生産力ヲ殖
ヤシテモ、朝鮮、臺灣、滿洲ヲ失ツタ
日本トシテハ七千五百萬ノ人口ヲ包容
スルコトハ困難デアアル、斯フ云フコト
ヲ論ジラレテ居リマスルガ、是ハ一面
ノ眞理ト考ヘテ宜イト思フノデアリマ

ス、然ラバ此ノ狹隘ナル國土ニ對シテ
ハ、出來ルダケ耕土ノ價值ヲ高メルト
云フコトデナケレバナラヌト思フ、耕
土ヲ利用スル場合ニ於キマシテハ、平
面的ニ利用スル場合モアリマセウシ、
立體的ニ利用スル場合モアリマセウ
ガ、限ラレタル耕土ニ於テ無限大トハ
申シマセウガ、能力以上ノ食糧生産ヲ
要求スル場合ニ於テ、非常ナル考ヘ方
ガナケレバナラヌト思ヒマス、茲デ政
府ハ直ニ開墾、或ハ干拓、或ハ土質
ノ改良ト云フコトヲ仰シヤルト思ヒマ
スガ、此ノ干拓ニ付テ一言申上ゲタイ
ト思ヒマス、先般農林大臣ハ特ニ琵琶
湖ノ干拓ヲ例示サレテ、干拓ノ將來性
ヲ御話ニナリマシタガ、琵琶湖ノ干拓
ハ三年前ヨリ著手シテ居リマス、併シ
ドレダケノ米ガ獲レマシタカ、農林省ハ
本當ノコトヲ御承知ニナツテ居ルカ、
又當時土地開發團ガ一部手ヲ著ケマ
シタガ、遂ニ其ノ事業執行ノ困難ナル
ヲ認メテ之ヲ放棄致シマシテ、縣ガ縣
ノ事業トシテ之ヲサント致シタノデア
リマスルガ、到底微力ナル地方費ニ
於テ支辨出來ルモノデハアリマセウ、
今回國家ガ之ニ向ツテ經費ヲ負擔シ
テ、此ノ事業ヲ遂行スルヤウニ伺ツタ
ノデアリマスルガ、アノ干拓事業ニ付
テハドウ將來ノ御見込ミヲ立テテ居ラ
レルカ、實際ヲ御承知ニナツテ居ル
カト云フコトヲ承リタイ、是ハ戰爭中
一粒デモ米ヲ獲ラナケレバナラナイト
云フ、アノ戰爭勝敗キ理念ニ追ヒ廻
サレテ、可憐ナル所ノ國民學校ノ兒
童、或ハ中等學校ノ學生ガ、無理ヤリ
ニ強ヒラレテ使用サレタノデアリマ
ス、其ノ結果タルヤ、更ニ酷イラレタ
モノハアリマセウ、今一粒ノ米モ大事
ナ場合デアリマス、何時本當ノ米ガ上

ルカ分ラナイヤウナ干拓ニ、而モ特配
ヲシテ努力ヲ使用スルコトハ、全ク食
糧事情カラ言ヘバ損失ヲ致シテ居ル
デアリマス、是ハ條々閑田ノ野氣ナ時
代ニヤル仕事デアアルノデハナイカ、失
業救済ノ意味カラ言ヘバ或ハ一ツノヤ
リ方トモ考ヘルノデアリマスガ、干拓
事業ト云フコトハ、埋立ト違ツテ、天
然ノ形ヲ、天然自然ノ力ヲ、小サイ人
間ノ力ニ依ツテ一時的ニ之ヲ利用ス
ル、洵ニ自然ニ對スル日演デアリマ
ス、殊ニ彼等ノ技術ハ過去ノ氣象記錄
ヲ根據ト致シテ居ルヤウデアリマス、
所謂近畿地方ノ雨水降水量ガドレダケ
アルカ、早魃ガドウ云フ風ニナツテ居
ルカト云フ過去ノ記錄ヲ追ツテ計畫ヲ
進メテ居ルノデアリマス、此ノ五日ニ
風アリ、十日ニ雨アリト云フ順調ナル
氣候ハ、自然ニ育ツタ委ニ於テ初メテ
五日ノ風モ十日ノ雨モ來ルノデアアル、
所ガ戰爭ノ爲ニ國土ハスツカリ荒サ
レテ居ルノデアリマス、山林ハ濫伐セ
ラレテ、雨降レドモ之ヲ貯水スル力ナ
ク、遊水地モナク、全ク過去ノ記錄ヲ
打破ル所ノ出水ガ起ツテ來ルノデアリ
マス、土木ノ災害ガ年々繰返サレルコ
トハ御承知ノ通りデアリマス、此ノ不
自然ナル結果ニ因ツテ起ル所ノ天然氣
象ヲ記錄トシテ干拓ヲ行ハル爲ニ、其ノ
計畫ハ艱難シテシマフノデアリマス、
殊ニ是ハ官僚ト言ツテハ御叱リヲ蒙ル
カモ知レマセウケドモ、長イ間地方
ノ者ノ體驗ヲ聽カナイ、例ヲ舉ゲテ申
上ゲマシレバ曾根沼地云フ干拓地デア
リマス、此ノ曾根沼地ハ僅カ七、八町
歩ノ干拓地デアリマスガ、其ノ地方ノ
人ハ此ノ池ハ駄目デス、アノ山ノ下カ
ラ水ガ湧イテ來ルノデアアルカラ、如何
ニヤツテモ駄目デスゾト言フノヲ政

ヤツタノデアリマス、御承知ノ通
リ干拓スルニ付キマシテハ、干拓ス
ル爲ニ湖邊ノ良イ熟田ヲ集水渠ノ爲ニ
犧牲ニ供サナケレバナラヌセウ、八町
歩カソコヲ干拓スル爲ニ、一町三
段カラノ熟田ヲ犧牲ニ供シテ、集水渠
ヲ作ツタノデアリマス、サウシテソレ
ヲ實行致シマシタ所、汲メドモ汲メド
モ盡キセヌデアリマス、遂ニ是ハ抛
棄セザルヲ得ナクナリマシテ中止致シ
マシタ、中止致シマシタガ、僅テ一町
三段歩カラ潰シタ此ノ熟田ヲドウシテ
呉レルカ、ヤハリ經費ヲ掛ケテ之ヲ元
通リノ熟田ニシテ返サナケレバナラ
ヌ、之ニ從事シタ努力ハ他ニ使ハレテ
モ食ハレデアルマセウガ、ソレガ爲
ニ非常ニ努力ヲ使ツテ、サウシテ其ノ
爲ニ特別ニ食糧補給ヲシテヤツタ仕事
ガ、御破算デ「ゼロ」デアリマス、此ノ
干拓地ハ過去ニ於テドレダケノ成績
ガ上ツテ居リマスガ、數字上御示シ
ヲ願ヒタイ、又琵琶湖ニモ成功シタ
トハ申上ゲラレマセウガ、成功シタ
ウナ干拓モアリマス、又今後色々ナ
方面ニ此ノ干拓ヲ數多ク擴メテ行ク
ノデアリマス、思ヒマスガ、京都ノ
耳原池ノヤウナ理想的ナ干拓ハ、恐
ラク空前絶後ト我々ハ老ヘテ居ル、過
去ノ我々ノ先祖ニ於キマシテ、耕地ニ
ナリ得ルモノハ耕地ニジタ、何ヲ苦シ
ンデ耕地ニナルモノヲ耕地ニセズシ
テ、之ニ水ヲ溜メ或ハ雜木林ニシテ之
ヲ放ツテ居ツタカ、ソナコトハナイ
管ナンデアアル、之ヲ誤ツタ思付キニ依
ツテヤリ出ス、ヤツタ以上ハ面目ニ掛
ケテデモ之ヲナシ遂ゲナケレバナラ
ナイ、茲ニ行政ノ無理ガ出テ來ル、ソレ
デアリマスカラ、地方民ハ其ノコトニ
付テデモ、他ノコトニ付テデモ信賴ヲ

缺ク、斯ウ云フ風ニ私ハ考ヘルノデアリ
マス、國土ヲ私ハ最も能ク利用スル上
ニ於テ、開墾モ或ハ干拓モ土地改良モ
考ヘルデアリマセウガ、ソレコロモ、
今日アル所ノ土地ノ地方ヲ、其ノ最高
限度マデ發揮セシムルト云フコトデナ
ケレバナラヌト私ハ思フ、私ハ戰爭中
アナタ方ノ農業行政ノ下ニ、自ラ農業
ヲヤツタモノデアリマシテ、斯ウ云フ
無理ヲ強ヒラレタカラ、私ハ能ク體諒
シテ居ル、私ハ其ノ當時言ツタ、コシ
ナ干拓ニ、臍ノ上マデ浸ケヤウナ所ニ
子供ヲ入レテ、肋膜炎ヲ胸膜炎ヲ起シ
タ學生モ澤山アリマス、死ンダ學生モ
澤山アリマス、サウ云フ意見犧牲ヲ供
シテヤルヨリモ、今戰時デ努力ガ不足シ
テ居ル、農村ハ今コソ復興ノ何カデ努
力ガ増加シテ居リマスガ、戰爭中ハ非
常ニ努力ガ缺乏シテ居ツタ、五回ノ除
草ガ三回トナリ、三回ノ除草ガ二回ト
ナルト云フヤウナコトニナツテ居ルカ
ス、ソコニ非常ナ減産ニナツテ居ル、
故ニセメテ其ノ方ヲ補ツテ、二回ノ除
草ヲ三回トシ、三回ノ除草ヲ五回トス
ルコトガ、如何ニ増産ニ寄與シテ行
カ分ラナイ、サウ云フコトデ可哀サウ
ニ子供ヲ使ツテ苦シメルヨリモ、其ノ
子供ノ努力ヲ熟田ノ方ニ提供サレテ戴
イタ方ガ宜イデバナイカト云フコト
ヲ、私ハ言ツタコトガデアリマス、併シ
ヤハリ其ノ面目ニ因ハレテ、今日マデ
サウ云フコトヲシナイデ來タヤウデア
リマス、此ノ干拓ハ將來何處マデモ科
學的ニ考ヘテ、出來ルコトナラヤツタ
方ガ宜シイ、宜シイガ、今一合ノ米、
一升ノ米モ欲シイ時ニ、サウ云フ事業
ニ――失業者救済ト云フナラ別デアリ
マスガ、サウ云フ所ニ特配シテマデモ
ヤラセルト云フコトハ、是ハ「マイナ

ス「マ」イナス「ア」加「テ」居ルコトニナ
ルト私ハ思フ「デ」アリマス、デ「ア」リマ
スガ、五千萬石ノ食糧ヲ確保シテハ
レバナラヌ、ソレニハ耕地ノ狹隘デ
アル、所謂國民ノ食生活ヲ根本的ニ考
テ行カレバナラヌト思ヒマスルケ
レドモ、此ノ五千萬石ヲ確保スルニ付
テハ、耕地ノ能力ヲ十二分ニ發揮セシ
メナレバナラヌ、併シ耕地ノ能力ニ
ハ限度ガアリマス、限度ガアリマス
ガ、之ヲドウ云フ風ニシテ行カト云
フコトヲ、農林當局トシテ御考ヘナ
ラナレバナラヌ、其ノ場合ニ開墾シ
テ殖ヤシテ行ク、干拓シテ殖ヤシテ行
ク、土地改良ヲ殖ヤシテ行ク、コンナ
マドロイ、何時ノコトカ分ラヌヤウナ
コトニ依ツテハ、此ノ五千萬石確保ト
云フコトハ到底私ハ無理デハナイカ、
斯様ニ考ヘル「デ」アリマス

又序「デ」アルカラ申上「ゲ」テ、一括シテ
御答辯ヲ得タイト思ヒマスルガ、五千
萬石ヲ供出シメルコトニ付全然米
ヲ以テハ御考ヘナラヌコトト思ヒ
マス、勿論米デハ出マセヌ、或ハ其ノ
一部分ハ麥、馬鈴薯、豆、サウ云フ雜穀、
又其ノ外ニ未利用資源ト云フモノモ加味
サレバコトト思ヒマス、此ノ頃體力三
十八種ト思ヒマスガ、未利用資源ノ確
保ヲ農村ニ御支援ニナツテ居ル「デ」ア
リス、アノ未利用資源ヲ私先般見タ「デ」
アリマスルガ、如何ニモ戰爭ニハ敗ケ
タトハ言ヒナガラ、草根木皮ヲ食ハナ
ケレバ命ガ繋ゲナイ——勿論關係方面
カラ格別ナル同情ヲ仰「デ」居ル「デ」
アリマスルカラ、草根木皮ヲ食ツテデ
モ、自分ノ力ヲ擧ゲテ、聯合國ノ關係
方面ノ好意ニ報イテ行カレバナラ
ヌコトハ勿論「デ」アリマスルガ、何ト云
フハ情ナイコトニナツタカト思ヒ

マス、アノ中ニ成程甘藷ノ蔓、葉、是
ハ宜シイ、極端ナモノニ於キマシテ
ハ、山野ノ雜草ガアル「デ」アリマス、
是レ「デ」毒草ハ除イテ、草ヲ刈ツテ
乾燥シテ出セト云フコトニナツテ居リ
マシテ、特に有毒ナル草ノ名稱ガ擧ゲ
ラレテ居リマシタガ、其ノ當時私ハ名
古屋ノ新聞ニ出テ居タ「デ」見マシタ
ガ、雜草ヲ食ツテ一家族六人奇妙ナ
ル病氣ニナツタ「デ」是ハ毒ト蒙リ葉ヲ主
シテ刈ツテ食ベテ居タ「デ」サウ「デ」アリ
マスルガ、或日ノコト、氣遣ヒミタ
イエナツテ、病院ニ搬ギ込ミタ「デ」所ガ、
病院ヲウロ「デ」飛歩イテ、殆ト原因ガ
不明「デ」アル 中毒ノヤウデモナシ、ド
モノ原因ガ不明「デ」アル、是ハ斯ウ云フ
モノヲ食ベタ結果デハナカラウカト、
疑問ヲ附シテ考ヘテ居ラレマシタガ、
斯程ニシナレバ五千萬石ノ米ガ出ナ
イ「デ」アリマセウカ、又戰爭當時カラ
「デ」アリマスルケレドモ、團栗ト云フコ
トヲ喧シク言ハレマス、我々先祖ハ曾
トハ非常ナル饑饉ニ遭遇シテ居リマ
ス、併シナガラ饑饉ノ實ヲ實ハ食ヒ
マシタケレドモ團栗ノ實ヲ食ツタ過去
ノ例ハナイ等「デ」アリマス、團栗ノ成分
ハ、科學者ノ言フ所ヲ聽キマスルノ
ニ、榮養ニハ絕對ニナラナイ、ノミナ
ラズ、アレハ食ベルト體內ノ榮養ヲ
持ツテ逃ゲル所ノ性質ガアル「デ」アリ
マス、團栗ノ粉ヲ食ベテ榮養失調ニ更
ニシテ掛ケルコト云フ結論ニナル、此ノ
團栗ガ盛ニ戰爭當時ヨリ言ハレテ居
ル「デ」アリマスルガ、サウ云フ點モ
考ヘナクテハナラナイ、丁度私日曜デ
田舎ニ歸ツタ時「デ」アリマスルガ、團栗
ヲ食ベル「デ」ナカラ食ベラレヤウト、批
把ノ種ヲ焼イテ、子供ガ六人食ベテ、
二人死ンダコトガアリマス、如何ニ食

ヘルト言ヒナガラサウ云フ風ナ科學的
研究モナサナイヤウナモノヲ、之ヲ食
糧ノ代替物トシテ利用サスト云フコト
ハドウカト私ハ考ヘマス、又馬鈴薯ノ
莖、葉ヲ乾燥シテ出スト云フコトガ
アリマシタガ、農村ハ今梅雨ノ時「デ」ア
ツテ、到底出マセヌ、又桑ノ葉ハ色々今
日マデ利用サレテ居リマス、殘桑ハ色
色利用サレテ居リマスガ、昨年採ツタ
殘桑ガマダ農業者ニ殘ツテ居ル所ガ
アル「デ」御承知「デ」アリマス、昨年採
ツタ桑ノ葉ガ學童ノ手ニ依ツテ集メラ
レテ、ソレガ其ノ村ノ農業者ニ入ツ
テ居ルサウ「デ」アル、米ヲ收容スルノ
テ居ルニナツテシヤウガナイケレドモ、
邪惡ニナツテシヤウガナイケレドモ、
取上「ゲ」テ與レナイカラ其處ニ積ンデ
アルト云フ或ル農業者ノ實際ヲ私ハ聞
イテ居リマス、マダ「デ」アリマス、サウ云フ
風ナコトデ、農村ニ對シテ政府ガ食糧
危機ガ、食糧危機ガ「デ」警鐘ヲ打サレ
マシタモ耳ニ來ナイ、是ハ農林當局ト
シテ能ク考ヘテ戴カレバナラヌコ
ト「デ」アルト私ハ思フ、サウ云フ風ナコ
トヲシテ居ツテ、サウシテ今ニ國民ハ
一千萬人餓死者ガ出ル、五百萬人ガ飢
ニ死スト仰シヤツタツテ、何ヲ言フト
云ツテ一ツモ問題ニシナイ、此ノ點ハ
私ハ農林當局トシテドウ御考ヘナツ
テ居ルカト云フコトヲ一ツ伺ヒタイ
又供出ノ甚ダ鈍ル點ハ、供出率ヲ新
聞ニ發表スルコト「デ」アリマス、私ノ方
デモ百パーセント出セト云ツテ、私
ハ百姓ヲシテ居リマシタケレドモ、私
ハスツカリ出シテ、配給ヲ受ケテ居ル
「デ」アリマスガ、百パーセント「デ」出
シタ地方事務所關係ガアルノニ、或ル
地方事務所關係デハマダ出ナイ所ガ
アル、縣下平均八五%シカ出ナイト、斯
ウ言ヘバ、六五%シカ出ナイ所ガナケ

レバナラヌ、何デ俺ノ方ハ眞面目ニ食
糧ヲ出シテ居ル、警察署長マデ連レ
テギヤン「デ」言ツテ出サセタガ、マダ
餘處ノ方ニ出セシカ出ナイ、縣ヲ平均
スルトマダ八五%シカ出ナイ、サウ
スルト六五%カ七〇%ノ所ガアルニ違
ヒナイ、サウスレバ慌テテ出サナクテ
モ宜カッタデヤナイカ、斯ウ云フ氣持
ガ起ル、此ノ農民心理ガ政治ノ上ニ最
モ取入レラレテ考ヘラレナレバナラ
ヌコトト思フ、是ハ生産者タケニ付
テノコト「デ」アルガ、殊ニ政府ハ、消費
ノ方面ニ於テ國民ニ食糧ニ關シテ不安
ノ念ヲ持タスコトガ一番イケナイ、二
月ニハ食糧危機來ルト云フヤウナコト
ヲ内閣ガ發表致シマスカラ、買出ガ始
マツテ來ル、賣出ガ出來テ來ル、醬油
ガサウデス、醬油ガモウ缺乏ス、鹽
ハ缺乏スル、サウスルト鹽ノ買出、鹽
ハ持割メガ出來、醬油ノ買出メガ出
來テ來ル、日本人ノ性格トシテ反對ノ
行動ヲ執リマス、此ノ難ガアリマス、
ソレ「デ」アリマスカラ、國民宜シク安心
シテ居レ、此ノ和田ガ農林大臣「デ」居
間、八千萬ノ國民ニ饑ジイ思ヒハサセ
ナイノダ、此ノ信頼感ヲアタガ全國
民カラ持タレテ、初メテ食糧政策ト云
フモノハ行ハレテ行ク、此ノ不安ガ國
民ニアル以上ハ、本當ノコト「デ」オヤリ
ニナツテモ其ノ逆效果ガ現ハレテ來
ル、サウシテ國民「デ」益々苦シメル所ニ
持ツテ行ク「デ」ハナイカト私ハ思フ、
又、細カイ點ハ色々アリマスルガ、見返
リ物資トシテ肥料ヲヤラウ、非常ニ農
村ハ肥料ヲ望ンデ居リマス、望ンデ居
リマスルケレドモ、米ノ供出者ニ對シ
テ獎勵ノ意味ニ於テ肥料ヲ配給スルコ
トハ、考ヘモノ「デ」アル、其ノ實情ヲ申
上「ゲ」タイト思ヒマスルガ、是レ以上出

セト言ウテ、ソレ以上出シ得ルノハ、
相當ノ耕作段別ヲ持ツテ居ル好イ農家
「デ」アリマス、牛モ飼ツテ居ル、堆肥モ
積ンデ居ル、兎ニ角農業者經營ニ於テ缺
陷ノナイ組織ニアル所ノ農家ガ供出ニ
感シニ應ジ得ラレト「デ」アリマス、情
農家「デ」農家——情農家ハナクテモ、色
色ノ事情ニアル所ノ農家ハ、出シタガ
ツテモ情セナイ「デ」サウ云フ事情ノ下ニ
肥料ガ供出見返リトシテ特配サレ
ル、皆好イ農家ガ實ノ「デ」アリマス、
私先般、コチラニ來ルマデ「デ」アリマス
ガ、麥畑ト苗代方面ヲ歩キマスト、一
見シテ分ル、此ノ家ハ舊農家「デ」、此ノ家
ハ肥料ヲ賣ツタ農家「デ」云フコトガ分
ル、麥ガ完全ニ收穫シテ居リマス、苗代
ガ立派ニ育ツテ居リマス、ソレハ硫酸
ノ特配ガアツタカラ「デ」アリマス、他ノ
農民ハ欲シクツテモ米ヲ出シ得ナイカ
ラ肥料ガ取レナイ「デ」アリマス、肥料
ガ取レナイカラ、肥料ヲヤリタクテモ
ヤレナイ、ソレ「デ」仕方ガナクテ止ン
デ居ル、所ガ在派ナル麥ヲ作り、立派
ナル苗代ヲ作り得ル農家ハ何「デ」パーセ
ント「デ」アルカト云ヘバ、部落カラ言ヘバ
極ク少數「デ」アリマス、デ「デ」アリマス
カラ、私ハ此ノ肥料ト云フモノハ總テノ
農民ニ最モ公平ニ分配スルヤウニシテ
ヤルコトガ、生産ヲ高メル上ニ於テ安
當「デ」ナイカト考ヘル、又殊ニ農民ノ心
ヲ心トセズシテヤツテ居ル所ノ肥料ノ
生産ガアリマス、體力此ノ七月マデノ
窒素肥料ノ生産計畫ハ三十二萬トン「デ」
ト承シタ「デ」アリマスガ、其ノ中ニハ
石灰窒素ガ入ツテ居リマス、アノ石灰窒
素ハ今急イデ七月マデニ生産シテ戴イ
テモ何ノ價值ガアリマス、普通「デ」言
ヘバ、來年ノ二月「デ」ナイト用ヒラレナ
イ肥料「デ」アリマス、其ノ肥料ヨリモ、今

望シテ居ルノハ、此ノ出穂ニ、三週間
前ニ欲シイ確安「アンモニア」デアリマ
ス、石灰窒素「ド」實シタツテドウシヨ
モナイ、幾ラ研究シタツテ今ノ間ニ合
ヒマセヌ、シテ窒素肥料「三十二」萬ト
ン生産シテ農村ニヤルノダト表向キ仰
シヤツテモ、農村ハナツトモ喜ンデ居
リマセヌ、肥料「ヤ」ルノデアリマスレ
バ、肥料「ヤ」ル時期ト肥料ノ種類ヲ、
農村ノ實情ニ合フヤウニシテ、其ノ生
産ヲ商工關係ニセシメテ、サウシテ之
ヲヤツテ戴カケレバナラナイ、此ノ
農林省ノ當然御考ヘニナルベキコト
ガ、商工省ノ肥料生産ノ方面ニ能ク連
絡ガ執レテ居ルヤ否ヤ、私ハ石灰窒素
ヲ今「ド」御實ニシテ、窒素肥料「ヤ」
ツタ、窒素肥料「ヤ」ツタト御考ヘニ
ナリマシテモ、農民ハ少シモ之ヲ利用
スルコトノ出來得ナイコトヲ申上ゲテ
置キタイト思フノデアリマス

殊ニ又食糧管理「デ」アリマスハ國家
ノ仕事ヲ營國ノ力ニ依ツテヤルヤウニ
組織サレテ居ルノデアリマスガ、此ノ
食糧管理「デ」云フモノハ「ド」程度ニ政府
ガ監督サレテ居ルカ、之ヲ能ク私ハ承
リタイト思フノデアリマス、サウシ
テ、是ハ養蠶ノ方面「デ」モアリマスガ、
農村方面「デ」ハ殊ニデアリマス、所謂尺
貫法ト「キ」ロ「」併用「デ」アリマス、茲ニ
所謂カラクリガアルヤウニ生産者ハ考
ヘテ居ル、例ヘバ滋賀縣ノ二十年度ノ
米穀ノ額當ハ八十五萬石トナツテ居リ
マス、此ノ八十五萬石ヲ各地方事務所
ニ何萬石、何萬石ト分ケテ來ルノデア
リマス、ソレハソレデ宜シイ、サウシ
テ一俵「」斗云フコトハ昔カラ決マツ
テ居ル、此ノ四斗「」スリ二俵半ヲ以テ一
石トシテ供出ガ出來得ラレナラバ、
八十五萬石「」チヤント出ル、所ガ生産者

ガ之ヲ供出スル時「キ」ロ「」デ行クノデア
リマス、一俵六斗「キ」ロ「」デ行キマス
四斗二升、惡イ米ハ五升、良イ米デモ
四斗一升入レナケレバナラヌ、オ前ノ
所ハ三俵出スノダ、オ前ノ所ハ十俵出
スノダト云フ割當ヲ受ケル、ソレデハ
俵出セバ四石デアリマスガ、ソレデハ
イケナイ、モウ二斗持ツテ來ナケレバ
オ前ノ所ハ四石ニハナラナイ、ヲカシ
イ話デヤナイカ、十俵ハ十俵、イヤ
「キ」ロ「」デ行クト六十「キ」ロ「」ケレバ檢
査ガ通ラヌカラ、モウ二斗ナリ三斗持ツ
テ來テ呉レ、ソレデハオ前ノ所ハ十
俵ノ供出ハ濟マヌ、サウスルト八十五萬
石ト云フノハ八十六萬石ニモ七萬石ニモ
ナツテ來ルノデアリマス、此「キ」ロ「」
ト石ノ食違ヒ、之ヲ生産者ハ、何ダカ
生産者ヲベテニ掛ケルヤウニ考ヘテ
居ル、斯ウ云フ細カイコトデモ所謂行
政ニ當ルハ考ヘテ實ハナケレバナラ
ナイ、殊ニ獎勵金ナリ米代ノ運配「デ」
アリマス、米ヲ買上ゲテ、何時其ノ米代
ガ來ルノカ分ラナイ、又十九年度ニ於
テハ色々ノ獎勵金ガ出サレタガ、其ノ
獎勵金ノ如キハ九月頃ニナツテ漸ク渡
ツテ居リマス、私ハ催促シテヤツタ、
二月十一日ニ全部額ツテ供出致シタノ
デアルガ、ソレガ七月ニナツテモ、八
月ニナツテモ金ガ來ナイ私ハ其ノ當時
ノ、稻田知事「デ」アリマスガ、稻田知事ニ
御話シタラビツクリシテ居タ、大變デ
ス、ソナコトヲシテ置イテ農村ニ膝
詰メデ、好意的ニドウカ供出シテ呉レ
ト言ツタツテ、ソナコトハ出來ナ
イ、早速本省ノ方ヘ交渉シマシテ、責
任ヲ以テ御拂ヒ致スト云フコトデ、八
月十日頃ニ漸ク獎勵金ガ渡ツタヤウナ
狀況「デ」アリマス、斯ウ云フコト「デ」ア
リマスカラ、モウ農村「デ」ハ殆ド相手ニシ

テ居ナイ、ドウナツテモ宜イト云フヤ
ウナ棄テヤリナ氣持ニナツテ居ルノデ
アリマス、ソコヘ強權發動ト來タ、サ
ウシテ各地ノ出荷狀況ヲ見ルト、中々
經ツテモ出テ來ナイ、茲ニ所謂正直ナ
者ハ馬鹿ヲ見ル、慌テ者ハ馬鹿ヲ見ル
ゾト云フコトニナツテ控ヘ目ニナツテ
來ル、サウシテコソツチハ益々運配欠配
ニ依ツテ生活難ヲ觀ヘル人ガ出テ來
ル、是ハ全ク中間ノ供出、配給ヲ操作
スル所ノ政府行政當局ノ責任「デ」思
フ、斯ウ云フ點ハ小サイコト「デ」アリ
マスガ、相手ハ小サイ生産者「デ」アリ
マス、此ノ氣持ヲ酌ミ取ツテ行カナケレ
バナラヌノデハナナイカト私ハ思ヒマ
ス、殊ニ田舎カラ東京ニ參リマシテ、
大阪「デ」モ、神戸「デ」モ同ジ「デ」アリ
マスガ、此ノ荒レニ荒ラサレテ戰災「デ」アリ
マス、アノ戰災「デ」見ルト、ナゼ政府ハ
手ヲ入レテ、地主ニ向ツテ強權借上
モ宜シイ、當分家ハ建テラレナイカラ、
耕地ニナル所ハ耕地ニシテ、蔬菜或
ハ雜穀ノ栽培ヲヤラナイノカソレヲ
ハニシテモ、モツト指導ヲシナケレバ
ナラナイ、我々ガ見テモ何「デ」アルガ、
街ノ人ハオ大名ノ田作り「デ」アリマス
カ、折角努力ヲシテドウカシテ麥ヲ作
リタイ、大根ヲ作りタイト骨折ツタ此
ノ東京ノ人ノ努力ガ完全ニ酬イラレテ
居リマセヌ、酬イラレナイ管「デ」アリ
マス、何モ知ラナイ、人カラ聞キ、田舎
カラ來タ人カラ聞イタ位「デ」アラレカ
ラ完全ニ栽培ハ出來ナイ、勿體ナイ話
デアル、三本ノ胡瓜ヲ十圓「デ」買ツテ居
ル時ニ、胡瓜位ハ何本「デ」モ作レル、此
ノ危機ニ迫ツテ居ルナラバ、危機ガ迫ツ
テ居ルランクモツト國土ヲ利用シテ、
國土ノ天惠ヲ彌ガ上ニモ私ハ上ゲテ行
カナケレバナラヌト思フ、サウ云フ零

細ナ所ニ氣ヲ付ケテ始メテ國民ガ精神
的ニ此ノ危機突破ニ協力スルコトニナ
ツテ來ル、農村カラ來タ時ニ惜シイコ
ト「デ」、ソナコトヲシナイデモツト何
ト「デ」、カヤツタラ出來ヤウガ、指導シタ
宜カラウト誰モ言フ、サウ云フ氣持
「デ」農村ニ歸ツテ蔬菜ヲ供出シロ何
ヲシテ居ツテ云フ氣持ガ自然起ツテ
來ルコトハ私ハ尤モダト思フノ「デ」ア
リマス、色々申上ゲタイノ「デ」アリ
マスガ、農林大臣大分御急ギヤウ「デ」ア
リマス、肝腎ナコトハ又農林大臣ノ御
出席ヲ求メテ、明日ニデモ御尋ネヲス
ルコトニ致シマシテ、以上ノ此ノ根本
的ナ考ヘ方ニ對シテ、農林大臣ノ本當
ノ肝カラノ御意見ヲ承リタイ
○和田國務大臣 御答ヘ致シマス、馬
鈴薯ト麥ノ價格ヲ價格別別上テ行カズ
ニ、唯獎勵金「デ」行ヒマシタノハ、一ツ
ニハ價格體系トノ關係ガアリマシテ、
價格體系ヲ素スト云フコトガアリマセ
ヌヤウニ、暫定的ナ考ヘ方「デ」ヤツタ
「デ」アリマス、モウ一ツニハ、馬鈴薯ヲ
本年度ノ食糧ノ操作上、期限付ノ獎勵
金「デ」アルコトヲ要シマシタノ「デ」、左様
ニ致シマシタノ「デ」ゴザイマス
ソレカラ開拓ノ問題「デ」アリマスガ、
開拓ノ問題トソレニ關係シマシテ政府
ガ操作作用トシテ必要ナ米、麥其ノ他ノ
雜穀、又甘藷、馬鈴薯ト云ツタヤウナ
食糧ヲ取廻メテ五千萬石ヲ得ルノニ
ハ、單ニ千拓「デ」ケデハナク、現在ノ既
耕地ノ生産力ヲ上ゲテ行クノガ近道「デ」
ハナイカト云フコト「デ」アリマスガ、其
ノ點ハ私モ左様ニ考ヘマス、面積カラ
言ヒマシテモ、現在既耕地ノ方ガ多イ
ノ「デ」アリマスカラ、其ノ既耕地ノ生産
力「デ」段ニ付テ假ニ二%ナリ三%ナリ上

ツテモ、總量ハ非常ニ多イコトニナル
ノ「デ」アリマシテ、此ノ點ニ付キマシテ
ハ幾トシマシテハ、技術ノ發達「デ」ア
ルトカ、其ノ他經營ノ改善「デ」アルト
カ、色々ナ事柄「デ」ヤツテ行ツテ居ルノ
「デ」アリマス、サウ云フ方法ノ事柄ハ我
我トシテモ十分努力致シテ居ルノ「デ」ア
リマス、唯茲「デ」考ヘナケレバナリマセ
ヌノハ、政策ト云フモノハ、唯眼前ノ
コト「デ」ニ没頭サレテハナラナイノ「デ」
アリマシテ、將來ノコトモヤリ考ヘ
テ現實ノ政策ヲ立テ、行クコトガ必要
ナノ「デ」アリマス、開拓、千拓、開墾ト
云フコトハ成程ノ直グニハ效果ハ上リ
マセヌガ、是ハ將來ニ於テ、ソレガ實
ツテ結果トシテ出テ來ルノ「デ」アリマシ
テ、丁度今農機具ヲ造リ、肥料ヲ造ル
方ヘ資材ヲ廻スノハ、是ハ直グ食糧ニ
ハナリマセヌガ、次ノ生産ノ段階ニ於
テハ、ソレガ食糧トシテ出テ來ル、是
ト丁度同ジヤウニ考ヘナケレバナラヌ
ノ「デ」ゴザイマシテ、千拓、開墾ノ問題
モ、一ツニハ現在「デ」アリマス所ノ失業
者ノ對策トシマスルト同時ニ、將來ノ
農業政策トシテモ是ハ續行シテ行ク
ト云フ考ヘ「デ」ゴザイマス、開拓ノヤ
リ方ニ付キマシテハ、御説ノヤウニ
十分科學的ニ調査シ檢討致シマシテ、
ソコニ歸順ノナイヤウニ臆立ヲ排ヘテ
ヤツテ行クベキコトト思ツテ居リマ
ス、今後農林省ト致シマシテハ、唯單
ニ功ヲ焦ラズニ、十分好イ結果ガ出テ
來マスヤウニ、豫メ十分調査檢討ヲ致
シマシテ、又地方ノ古老ノ意見モ能ク
聽キ、又ソレヲ學理的ニモ十分吟味致
シマシテヤツテ行ク積リ「デ」アリマス、
殊ニ二十一年度ノ開拓ニ付キマシテ
ハ、琵琶湖外十三箇所モヤルノ「デ」ア
リマスガ、今年ハ事業計畫ノ實地調査、

肥料ノ調達ト云フ準備ガ主トシテヤラレルノデハナイカ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

ソレカラ肥料生産ニ付キマシテハ、硫安ノ生産ニ付キマシテモ今ノ所出來ルダケ全カテ盡シテ居リマス、石灰素素モ同様デアリマシテ、肥料全體トシテ政府トシテバ乏シイ資材モ優先的ニ配給シ、石灰ナカモ鐵道ト同ジヤウニ考ヘル位ニシテ、現在ノ既存ノ設備ヲ十全ニ利用シテ生産ヲ上ゲルヤウニ全カテ盡シテ居ルノデゴザイマス、ソレ等ノ點ニ付テ農林省ト商工省トハ十分ナ連絡ヲ執ツデ居ルノデアリマシテ、兩省ノ間ニ其ノ點ニ關スル齟齬ハゴザイマセヌ

ソレカラ食糧増産ノ他未利用資源ノ問題等ヲ引括メテ御答ヘ致シマスガ、私モ若イ頃カラ農村ノ人達ト會フテ話スノハ非常ニ好キデアリマシテ、ヨク農村ノ人達ト話スノデアリマス、其ノ時ニ私ハ一官依トシマシテ、行政ガ農村ノ末端ニ於テ一體ドウ云フヤウニ施行サレテ居ルカト云フコトハ、常ニ注意シテ聽イテ居ツタノデアリマスガ、御説ノヤウニ、私モヤハリ末端ニ於ケル平凡ナコトガ結局確實ニヤラレテ行クト云フコトガ、政策ノ效果ヲ上ゲル一番ノ途ダト考ヘテ居リマス、其ノ點ニ付テハ、中央ニ居ル者ガ十分ニ注意ヲ致シマス同時ニ、末端ノ者モソコノ所ハ十分自覺シテ、自分ノ行ツテ居ル仕事ハ非常ニ部分的ナ小サナ仕事デハアルガ、是ハ農家ニ對スル關係其ノ他カラ見テ、結果ハ非常ニ大キナ效果ヲ持ツモノダト云フコトヲ十分自覺サレテ、末端ノ所謂行政官ガサウ云フ心構ヘデ政府ノ大キク決メマシタ政策ヲ行政ニ移スト同時ニ、農家ニ於テモ

色々此ノ事情ヲ十分理解サレテ、お互ヒ此ノ行政ヲ善クヤツテ行クト云フコトニナリマスレバ、效果ガ非常ニ上ツテ來ルト私ハ思フノデアリマス、只今言ハレマシタヤウナ點ニ付テ行政上ノ末端ニ於ケル色々ノ不備ニ付キマシテハ、私共トシテ十分注意ヲ致シマスルシ、又皆樣方ニ於テモ十分注意サレテ難捷サレント御願ヒ致シタイト思ヒマス

○森幸委員 色々澤山ヲ申上ゲテ御答辯ヲ得ナカッタ點モアリマスガ、今ノ御答辯ニ依リマス、干拓ガ十三箇所アルト云フ御話デ、是ガ調査準備ト考ヘテ居ルト云フ御話デアリマスガ、是ハトシテモナイコトデアリマシテ、既ニアタタノ方ヘ御報告ニナツテアル筈デアリマスガ、中ノ湖ト入江湖、是ハ捕鯊ヲ使ツテマデヤッタコトモアルノデアリマシテ、三年モ前カラヤツテ居ツテ碌ニ仕上ラナイ、今種エラレナイ、昨年ヤラレテモマデ仕上ラヌガ、サウ云フコトヲ又調査研究ヤルト言ツテ居ル、調査研究ニ日ヲ費ヤシテ國家ノ力デオヤリニナルノダカ、十年掛ツテモ二十年掛ツテモオヤリニナルナラ出來上ルデアリマセウカ、サウ云フコトガ生産意欲ニ障礙ニナツテ居ル、今間ニ合ハヌデモ、將來ノ生産ノ基礎ニナルト傳シタル、ソレハ十分注意シテ、減産ニナツテ居ル今日貴方米ヲ失業救済ノ方ニ廻ス、サウ云フ所ニ貴方米ヲ廻スト云フコトハ、「マイナス」ニナルバカリデハナイカ、ト言ツテモ干拓ニ全然私ハ反對スルノデハナイ、今ノ場合ヤツテ宜イカト云フコトヲ考證シテ裁キタイト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

然ノヤウニ言ハレル、搾取階級デアアルトカ、イヤドウトカ斯ウトカ、地主ガブルデ遊ンデ暮シテ居ルヤウニ言ハレルノデアリマス、地主ト言ヒマシテモ、ビンカラキリマデ隨分アル、何十町歩、何十町歩ト云フ地主モアリマセウ、此ノ十町歩以下ノ地主ト云フモノハ一體今日ドナリ生活ヲシテ居ルカ、是ハ實例ヲ申上ゲテ御意見ヲ承リタイ、農林大臣ハ御忙シヤウデアリマスガ、是デ今日ノ質問ハ打切ツテ置キマスガ、是ハ二十等級ノ場合デアリマス、此ノ一等ヲ占メテ居ル人ノ實際デアリマス、是ハ貸付ケタ田ガ七町三段歩アリマス、七町三段歩デ是ノ耕作料ノ收入ガ四千四百二十二圓デス、ソレカラ公課ヲ總テ差引致シマス、千九百二十二圓七十錢殘リ、是ガ私ノ調ベタルノ一等級ノ人デアリマス、千九百二十二圓七十錢殘リマス、其ノ村デ二十等ノ中ノ十四等ニ屬シテ居ル自作兼小作農、是ハ自作ガ四段歩、小作ガ一町歩デアリマス、此ノ收入ハ裏作、間作ハ別ニテ居リマス、唯米ダケノ收入ト御承知ヲ願ヒタイノデアリマスガ、此ノ收入ガ七千六百八十圓デアリマシテ、公租其ノ他引キマス、六千九百八十八圓九十二錢殘リマス、次ニ純小作者、是ハ十九等ノ末端ニ近キ純小作者デアリマスガ、一町四段歩小作シテ居リマシテ、此ノ收支差引ガ六千七百三十三圓六十五錢、是ガ十九等ノ小作者ノ純益デアリマス、農業收入一等ノ地主ノ收入ガ、今申シマシタ九百二十二圓、今日斯ウ云フヤウナ狀態デス、是ハ九公六私デ居ル、箇デハアリマセヌ、九公六私デ居ルノ收入デアリマス、斯ウ云フ實狀デ、是ハ七貸町

シテ居ル、約十町歩ノ地主階級デアリマスガ、地主階級ト申シマシテモ今申シマシタヤウニビンカラキリマデアルノデアリマス、十町ヤ十五町ノ地主ト云フモノハ、世ノ中ガ言ハレルヤウナ有閑階級デアリ、搾取階級デアリマセウカ、是等ガ農村ト云フモノハ非常ニ封建化サシテ居ルヤウニ考ヘル人ガアルヤウデアリマスガ、農林大臣、果シテドウ御考ヘニナツテ居リマスカ、又地方ニ於ケヨシテハ、是等ノ人ガ七町マデ行カナイデモ、三町、五町持ツテ居ル地主ガアツテ初メテ、農村ト云フモノハ總テノ施設ガ出來、文化的ノ進歩ガ出來テ行ク、斯ウ云フヤウニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、此ノ點ノ御所見ヲ承リタイ

○和田國務大臣 干拓ノコトニ付キマシテハ、具體的ノコトハ私一寸分リマセヌカラ御答ヘ致シ策々マスガ、琵琶湖外十三箇所ニ付テハ、ヤハリ資材ノ調達トカ、其ノ他場所ニ依ツテハ今言ヒマシタヤウニ十分ナ検討ヲシテヤルベキデアル、斯ウ云フコトヲ申上ゲタ譯デアリマス

ソレカラ地主ノ點デアリマスガ、地主ハ、個人的ニ見マシレバ善イ地主サシモアリ、惡イ地主サシモアルト思ヒマス、唯日本ガ今斯ウ云フ戦後ノ變革期ニアル場合デアリマスノデ一ツノ制度トシテ見マス、ヤハリ農村ノ民主化ト云フコトヲ行ハルヲ得ナイノデアリマシテ、其ノ點ニ於テ、個人的ニ見マシレバ立派ナ地主サシモアリ、又惡イ地主サシモアルノデアリマスガ、個人ノ問題ト制度全般ノ問題トハ別箇ニ考ヘナケレバナラナイノデハナイカ、斯様ニ私達ハ考ヘテ居リマス

○成島委員長 本日午後ハ地方制度改

正等ノ本會議ガアリマシテ、御關係ノ方モ多イヤウデアリマスノデ、森君ノ質問ハ明日モ繼續シテ、本日は是デ散會致シマス

午前十一時五十分散會

〔參照〕

食糧緊急措置令委員會要求資料

北委員要求資料

一、主要農產物價格指數調

一、全國土地賃賃價格別而種調

右ノ内北海道ハ特ニ詳細明記ノコト

苦米地委員要求資料

一、本勅令施行以後、強糧發動ノ適用ヲ受ケタル主要食糧ノ收用狀況調

森幸委員要求資料

一、昭和十八、十九、二十年度各府縣別米、大麥、小麥、雜穀、未利用資源ノ實收量及ビ供出量調

一、耕地所有別農家戸數

一、耕作段別ニ依ル農家戸數

一、米、麥、其ノ他農作物作付段別及ビ收量調

一、昭和十八年以來、干拓地ノ實績及ビ其ノ所要經費

一、昭和十八年以來開墾地ノ實績ト將來ノ見込

一、干拓及ビ開墾ノ平均所要經費

昭和二十一年七月二十七日印刷

昭和二十一年七月二十八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局